■ 河合塾テキスト「地理総合，地理探究（共通テスト対応）〈2026 基礎シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第14講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	④	Ａはプレートのずれる境界，Ｂはプレートのせばまる境界であり，西側の海洋プレートであるナスカプレートが，東側の大陸プレートである南アメリカプレートの下に沈み込んでいる。火山は，ずれる境界ではプレート境界付近に分布するが，せばまる境界の沈み込み帯ではプレート境界に並行して大陸側に分布する。よって，Ａは**ア**，Ｂは**イ**に該当する。次に，地震は，ずれる境界ではプレート内部で生じる震源の浅いもののみであるが，せばまる境界の沈み込み帯では，プレート内部で生じる震源の浅いものと，プレート境界で生じる震源の深いものがみられる。したがって，○は両方に分布するため浅い震源の地震，□は**イ**（せばまる境界の沈み込み帯）のみに分布するため深い震源の地震となる。	★★★
2	②	Ｂ（ポー川）：**カ**，ｙ。新期造山帯のアルプス山脈に源流をもつため，標高 500m 以上の地域がみられる。また，アルプス山脈の雪解け水が供給されることや，流域に比較的降水量の多い温暖湿潤気候が分布することなどから，年平均流量が多い。上流部に傾斜地があり流量も多いため，河川によって侵食，運搬されてきた多くの土砂が河口に堆積し，三角州（デルタ）が形成されている。Ａ（セーヌ川）：**キ**，ｘ。安定陸塊や古期造山帯に属す低平な地形がひろがる地域を流れるため，標高 500m 以上の地域がほぼ存在しない。また，流域に比較的降水量の少ない西岸海洋性気候が分布することなどから，年平均流量が少ない。低平な地形を流れその流量も少ないため，河川による侵食，運搬作用が小さく河口への土砂の供給量が少ないことから，海水の侵入により三角江（エスチュアリー）が形成されている。	★★★
3	⑥	**サ**：ユーラシア大陸東岸，南アジア，アフリカ大陸東岸，カリブ海周辺での災害発生数が多いことから，大陸東岸付近を襲来する熱帯低気圧によるものである。**シ**：造山運動が活発である新期造山帯付近での災害発生数が多いことから，地震・津波によるものである。**ス**：プレートの沈み込み帯にあたる部分を中心に災害発生がみられることから，火山噴火によるものである。災害発生数が少ないことや，ヒマラヤ山脈周辺でみられないことも判断材料となる。	★★
4	④	**カ**：大陸氷河の侵食。氷河湖（氷成湖）にあたる。氷河の侵食や堆積作用によって形成されたものである。**キ**：地殻変動。断層湖（構造湖）にあたる。断層運動によってできた凹地に湛水したもので，水深の大きいものが多い。カスピ海は断層湖であり，これがヒントとなる。Ｌ：海の入り江。海跡湖にあたる。かつての海域の一部が外海から切り離されて形成されたもので，砂州，砂嘴，沿岸州などの堆積が成因となる。海岸部の浅海底であったところに形成される場合が多く，水深の小さいものが多い。Ｍ：カルデラ。火口湖のうちのカルデラ湖にあたる。火口の凹地に湛水したもので，海跡湖よりも水深の大きいものが多い。なお，琵琶湖は断層湖である。	★★
5	②	②：Ｐ。駅の手前では進行方向の左側に集落が立地していることがよみ取れ，駅前には比較的大きな市街地が分布する。①：Ｓ。Ｒ駅からＳ駅までの間には複数のトンネルがあるのがよみ取れ，駅は谷底にあり付近に家屋はみられない。③：Ｒ。列車はＱ駅を出ると左へカーブし河川を渡り，さらに左へカーブするため，左側の車窓から渡ってきた川と河川沿いの平地が見える。④：Ｑ。Ｐ駅からＱ駅までの間では，線路の南側は針葉樹が広がる斜面となっており，国道と並走する。南側に高速道路が通っており，ところどころに集落が分布しているのがよみ取れる。	★★★

6	②	②：Y。現在の地形と土地利用の模式図である右の図から，Yの東側を北から南へ向かって流れる河川は，等高線の形状から，周辺の平野よりも高いところを流れる天井川であることがよみ取れる。等高線の形状は，この河川と交わる部分で上流側（北側）から下流側（南側）に向かって凸となっている。天井川周辺は氾濫時に浸水被害を受けやすい。①：X。山麓付近の急傾斜地を造成した住宅地で，崖崩れが生じる可能性がある。③：Z。海であった部分を埋立て造成した土地で，水分を含んだ砂質地盤であるため，地震の際には一時的に地盤が流動化する液状化現象が生じることもある。④：W。河川が山地から平野に流出する谷口付近にあたり，大雨などの際に，上流から岩屑や砂礫などが水と混然となって高速で流下する土石流の被害を受ける可能性がある。	★★★
7	④	Eは北回帰線付近に広大なサハラ砂漠があるため③，④のいずれか，Fは北回帰線付近でも大陸東岸では乾燥帯が分布しないため①，②のいずれかとなる。まずEにおいては，1月は熱帯収束帯（赤道低圧帯）が南下するため赤道よりやや南側で多雨となっている④，7月は熱帯収束帯が北上するため赤道よりやや北側で多雨となっている③と判断する。次にFにおいても，1月は熱帯収束帯が南下するため赤道よりやや南側で多雨となっている②，7月は熱帯収束帯が北上するため赤道よりやや北側で多雨となっている①と判断する。またFはモンスーンアジアにおいて，7月の高日季（夏季）に海洋から吹く湿潤な季節風によって多雨，1月の低日季（冬季）に大陸から吹く乾燥した季節風によって少雨となることから判断することもできる。モンスーンアジアにあたる北半球側で降水量のが多くなっている①が7月，少なくなっている②が1月である。	★★★
8	③	③：正文。Pは温帯地域に分布することから，成帯土壌の褐色森林土と判断できる。それぞれ，①は冷帯（亜寒帯）のポドゾル，②は熱帯ののラトソル，④は砂漠気候の砂漠土の説明である。	★★
9	④	U：④。比較的高緯度で大陸東部の内陸部に位置するため，気温の年較差が大きい。R：①。比較的低緯度に位置するため気温の年較差が小さい。また，新期造山帯に属するメキシコ高原上であるため，緯度のわりには年平均気温が低い。S：②。比較的高緯度に位置するが，海洋からの偏西風の影響を受けるため，気温の年較差が小さい。T：③。比較的低緯度に位置し砂漠気候となっているため，年平均気温が高い。	★★★
10	①	Yの1月：①。地点aは，1月に熱帯収束帯（赤道低圧帯）が南下しその影響を受けるため，非常に降水量が多くなる。Yの7月：④。7月に亜寒帯低圧帯（高緯度低圧帯／寒帯前線）が北上しその影響を受けるため，降水量が比較的多くなる。Xの1月：②。地点a，bは内陸砂漠が分布し年間を通して降水量が少ない。1月の季節風（モンスーン）は大陸からの乾燥風となるため，地点c，dも降水量が少ない。Xの7月：③。地点a，bは内陸砂漠が分布し年間を通して降水量が少ない。7月の季節風は海洋からの湿潤風となるため，地点c，dは降水量が多くなる。	★★★

11	⑥	野菜：**シ**。東京からの距離が近いほど，農地面積あたり収益が高くなっている。大消費地である東京からの距離が近いほど，輸送費が安くなり，鮮度の高い野菜を出荷できる優位性をもつためである。米：**サ**。東京からの距離に関係なく，農地面積あたり収益がほぼ一定で低い。大消費地の東京への距離のちがいによる輸送費の高低に関係なく，農協などの買い取り価格で収益が決まる傾向がある。果樹：**ス**。東京からの距離に関係なく，農地面積あたり収益の高低のばらつきが大きい。リンゴ，ブドウなどの果樹は，それぞれの栽培適地に特産地が形成される傾向があり，品種による価格差も大きいため，東京からの距離と収益の因果関係は希薄である。畑：Ｆ。大消費地とその周辺では収益の高い野菜などの生産がさかんなため，東京都とその近郊の県で指数が高くなっている。田：Ｄ。秋田県や新潟県などで米の生産がさかんなため，これらの県で指数が高くなっている。樹園地：Ｅ。青森県はリンゴ，山形県はサクランボの特産地であるため，これらの県で指数が高くなっている。なお，東京都や神奈川県は田の割合が低いため，相対的に樹園地の割合が高くなっている。	★★
12	①	① ラッカセイは，南アメリカ（Ａ）が栽培起源地域のマメ科の植物で，生産量第１位は中国（2023 年，以下同）である。ただし，この知識は詳細な内容であるので，他の３つの作物を先に判断して消去法で解答できればよい。② 天然ゴムは，アマゾン盆地（Ｂ）が栽培起源地域で，生産量第１位はタイである。③ 小麦は，西アジア（Ｃ）が栽培起源地域で，生産量第１位は中国である。④ サトウキビは，ニューギニア（Ｄ）が栽培起源地域で，生産量第１位はブラジルである。	★★
13	②	②：ブラジル。さとうきびから生成するバイオエタノールなどの生産がさかんなため，バイオ燃料の生産量が多い。近年は原油の生産量が増加しており，自給率も 100 を上回る。①：アメリカ合衆国。とうもろこしから生成するバイオエタノールなどの生産がさかんなため，バイオ燃料の生産量が多い。また，原油の生産量は世界第１位（2023 年，以下同）であるが，人口３億人を超える先進国で原油エネルギーへの依存度が高いことなどから，消費量も多く輸入量は世界第２位となっている。③：ドイツ。エネルギー資源に乏しく，原油の生産量は少なく，自給率も極めて低い。④：カナダ。人口は 3,900 万人程度で国内消費量が少なく多くが輸出されるため，自給率が高い。	★★★
14	③	**タ**：Ｋ。1980 年には第１次産業が７割を占め，農林水産業が中心の産業構造であったが，2016 年には第１次産業の割合が減少する一方，第２次・第３次産業の割合が増加し，工業製品の生産拠点としての役割が高まったと考えられる。**チ**：Ｊ。1980 年から 1995 年にかけては第２次産業の割合が増加し，製造業が拡大したが，1995 年から 2016 年にかけては第２次産業の割合が減少したことから，製造業の生産拠点が国外に移動したと考えられる。**ツ**：Ｌ。1980 年の時点で，すでに第１次産業の割合が低く第２次・第３次産業の割合が高いことから，最も早い時期より付加価値の高い製品を生産する製造業が発展し，さらにサービス経済化も進展したと考えられる。	★★
15	②	製造業：**サ**。非製造業：**シ**。シンガポールをみると，**サ**より**シ**の割合が高く，また，**シ**は 2000 年から 2019 年にかけて大きく増加している。シンガポールは製造業も発達するが，近年は金融，観光，流通などの非製造業が成長し，国際金融センターとなっており，日本からも非製造業の進出が活発である。アメリカ合衆国：Ｅ。ベトナム：Ｄ。ＤはＥより製造業（**サ**）の割合が高いことから，安価な労働力を求めて，日本から労働集約的な製造業の進出が活発なベトナムであると判断できる。	★★★

16	⑤	アメリカ合衆国の千人あたり死亡数：**B**。日本：**A**。近年は人口の高齢化が顕著なため，死亡率は上昇し，３か国の中で最も高い。アメリカ合衆国：**B**。新大陸の先進国では，発展途上国からの若年層の移民が多いため，先進国水準では出生率が高い。そのため，老年人口率は先進国水準では低めとなり，死亡率は比較的低い。フィリピン：**C**。かつては栄養状態や公衆衛生環境が悪く，医療技術も低かったため，死亡率は高かった。近年はこれらが改善されたことや，老年人口率が低いこともあり，死亡率は３か国中で最も低い。アメリカ合衆国の年齢別人口構成：**イ**。フィリピン：**ア**。０～14 歳の割合が高く 65 歳以上の割合が低い発展途上国型の人口構成となっている。人口ピラミッドではピラミッド型となる。アメリカ合衆国：**イ**。発展途上国からの若年層の移民が多いため，先進国のなかでは少子高齢化があまり進行していないといえる。日本：**ウ**。少子高齢化が最も進行した人口構成となっている。	★★★
17	③	③：アルジェリア。国土に占める乾燥帯の割合が高いため，人口密度は低い。イスラム圏の発展途上国であるため，人口増加率は高い。①：ベトナム。モンスーンアジアに位置し，人口密度は高い。発展途上国であるため，人口増加率は高いが，近年は経済発展にともない低下傾向となっている。②：カタール。西アジアの小国で，人口密度は高い。産油国で経済発展が著しく，建設業に従事する外国人労働力の流入が多くみられ，とくに社会増加率が高く人口増加率は非常に高くなっている。④：ニュージーランド。山がちな地形などもあり，人口密度は低い。新大陸の先進国であるため移民の流入もみられるが，人口増加率は比較的低い。	★★★
18	②	都市は第２次産業，第３次産業の発展とともに成長する。②：**ウ**。中国，インド，メキシコなど産業発展の著しい国が位置するため，300 万人以上の大きな都市の数が 40 年間で 6.5 倍に急増している。①：**イ**。ヨーロッパ，日本，アメリカ合衆国などの先進工業国が位置するため，1975 年の時点ですでに大きな都市が成長している。③：**ア**。ヨーロッパを除けば，人口が比較的少ない緯度帯であるため，大きな都市の数は少ない。④：**エ**。発展途上国が位置し，人口増加と都市への人口流入がみられ，大きな都市の数が増加している。	★★★
19	②	図は，岐阜県，愛知県，三重県が示されており，名古屋市が大都市圏の中心部である。高齢者夫婦のみ世帯：**カ**。おもに農村部や山間部では，若年層の流出によって高齢化が進展しており，高位となっている地域が多い。20 ～ 29 歳の単身者世帯：**ク**。ひとり暮らしの大学生や勤労者は，広い住宅の必要性が低く通勤・通学の利便性の高い大都市圏の中心部に多く居住する傾向があり，これらの地域で高位となっている。乳幼児のいる世帯：**キ**。子どもがいる世帯は，広い住宅の必要性が高くなるため，比較的地価が安い大都市圏の郊外に多く居住する傾向があり，これらの地域で高位となっている。	★★★
20	⑥	**K**（1975 年）：**シ**。ニュータウンの入居開始時期は，住宅の建設が同時期に集中し，大都市へ通勤するほぼ同世代の若年層の勤労者と，その子どもの乳幼児や児童が多くを占める人口構成となる。そのため，学校の新設や増設が行われる。**L**（1995 年）：**サ**。入居開始から約 20 年が経過し，50 歳前後と 20 歳前後の世代の割合が高いが，かつて子どもだった世代が就職・結婚などを機に転出したり，新たな転出入もあり，人口の同世代への集中の度合いは低下している。年少人口が減少することから，学校の統廃合の議論も行われるようになる。**J**（2015 年）：**ス**。入居開始から約 40 年が経過し，初期に入居した世帯主の世代は老年人口となり高齢化が著しい。住宅の老朽化や空き家の問題などが課題となる。	★★★